

安藤明 敗戦直後のGHQ受け入れ対策に、影となって尽力するも、表の世界からは無視されて終わった。

あんどうあきら

田中正造直訴1901 = 東京下谷で長男に生まれる。

日露戦争終・1905 = 4歳：

韓国併合・・1910 = **9歳**：

明治天皇没・1912 = 11歳：一家窮迫のため、下谷小学校五年で退学し、東京市役所給仕となる。

その後、歯科医の書生や修理工場の工員として働く。

本格政党内閣1918 = 17歳：叔父木下忠義を頼って北海道岩内に渡り、馬追いとなる。

第一次大戦終・1919 = **18歳**：

原敬首相暗殺1921 = 20歳：

護憲三派圧勝1924 = 23歳：再び東京に戻り、新宿丸安運送店に職を得る。

共産党事件・1928 = **27歳**：

この間、三越の店員、タイヤの修理業などに従事。

満州事変・・1931 = 30歳：

また最初の結婚をするが死別。

帝人疑獄事件1934 = 33歳：銀座の寺岡製作所に就職。生涯の伴侶となる久米正子と結婚。

日中戦争始・1937 = **36歳**：

第二次大戦始1939 = 38歳：東京大森区で***自転車一台の{大安運送店}を開業。**

日米開戦・・1941 = 40歳：小型トラック2台を購入。**_時局の緊迫化に伴い、業績は急上昇。**

創価学会検挙1943 = 42歳：***運輸鉄道省自動車局長の佐藤栄作と知り合う。城南トラック理事長・東京牽引車組合理事長・朝鮮人労務者及び朝鮮少年保護者協会会長などを務め、大東亜省及び軍需省顧問に就任。**

年金+総武装 1944 = 43歳：**_慶應義塾理事就任。軍需工場の仕事が殺到し、業績急拡大。土建業にも手を広げ、社員は2万5000人に。**

敗戦・・・1945 = 44歳：***銀座に移る。佐藤六郎海軍大佐から厚木飛行場問題の処理を依頼され、短時間で完遂。功績に対し、同日付で海軍省軍務局長から最後となる感謝状が贈られる。その際、工事代金250万円を受け取る。作業の帰途、宿河原の新明国上教会に立ち寄り、住職から"天皇護持"の啓示を与えられる。川崎市宿河原の不動尊(新明国上教会)の関山盛衆から'必ず、近く天皇とマッカーサーの為になる外人に出会う'との"お告げ"を受け、まもなく、マ元帥と懇意のフィッシャー大尉に出会い、GHQのある第一生命ビルを初めて訪れる。松前重義逓信院総裁とともに芝の高松宮邸を初めて訪れる。米大使館を訪問し、マ元帥の副官、フェローズ准将と会見、天皇とマ元帥会見の提案を行う。下請けも含めて16万人となる。築地に{大安クラブ}を開業。天皇の靖国神社参拝の実現性可否についてフェローズ准将に上申書を提出。即日、許可。ホイットニー將軍と会見、天皇戦犯論撤回を陳情し実現。電話・電信の復旧工事を一手に引き受け、急成長。{大安クラブ}にGHQの高級将校を数十名招待し、クリスマスパーティーを開いて、国体護持の熱弁を振るう。**

新憲法公布・1946 = **45歳**：***GHQの支持の下に、娯楽に飢える国民を喜ばすための全国都市に映画館を作る計画を立案。GHQ内左派と左翼連携で、{大安クラブ}閉鎖、日本映画社・理研ニュースの内紛に巻き込まれ、田中清玄らの読売新聞買収運動の資金源として取り沙汰され、遂にGHQ対敵諜報部に微罪で逮捕されるも、すぐ出所するが、**

極東裁判決・1948 = 47歳：**激動の昭和20・21年を回想する口述筆記録を作成。_{大安株式会社}倒産。**

独立回復・・1951 = 50歳：

メデー事件・1952 = 51歳：**{文藝春秋}に「大安クラブ覚え書」を掲載。**

自衛隊発足・1954 = 53歳：**私家版「天皇のマッカーサー」の一文を見て」を執筆。**

55年体制始・1955 = **54歳**：

なべ底不況・1957 = 56歳：**3人の息子たちを伴って_高松宮邸に行くも、引見を断られ、**

全国総合計画1962 = 61歳：**胃ガンのため、_没した。**